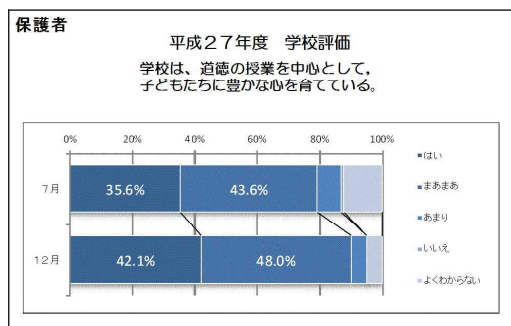
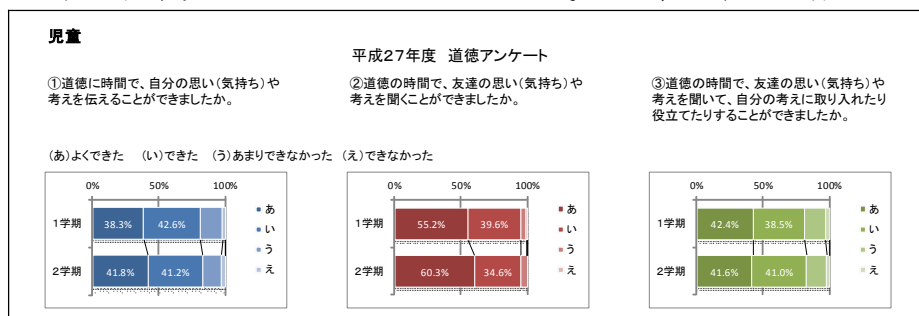


## V まとめと今後の課題

「ともによりよく生きようとする児童の育成」を研究主題に「自分の思いや考えを伝え合う道徳の時間の工夫・改善を通して」を副主題として、1年間の研究を推進してきた。その結果、以下のような成果と課題が明らかになった。

### 1 成果

- 道徳の時間における伝え合う活動を様々な視点から取り組んだり工夫したりすることで、児童一人一人が自らの思いや考えをしっかりともち、それを友達に伝えたり、友達の考えを聞きながら自らの考えを振り返ったりして、自らの思いや考えを互いに深めたり高めたりすることができた。
- 一人2授業の実践に取り組み、子どもの姿を基にしたブロック部会での授業研究会を重ねて検討することで、子どもの姿をしっかりと見取り、道徳の時間の工夫や改善を進めることができた。
- 「資料分析図」として、資料の価値や児童の実態を踏まえた発問の意図や構成を整理し、明確にしたことで、授業における子どもたちのつぶやきや発言を捉えながら価値理解や他者理解、人間理解につなげることができた。
- 明確な指導観をもち、本時のねらいをしっかりと位置付けて道徳の授業に臨むことで、互いに思いや考えを伝え合い、自分の考えを深めたり高めたりすることができた。
- 道徳教育全体計画の別葉を視覚化して改善を図ったことで、学校全体の教育活動と関連付けて道徳の時間の明確な指導観へとつなげることができた。また、道徳の授業を通して学んだ価値と結び付けて日常での指導に生かしたり子どもを称賛したりすることができた。
- 道徳アンケートの結果からも、子どもたちが道徳の時間において、「自分の思いや考えを伝える」と「友達の思いや考えを聞く」の割合が多くなってきている。このことから、「互いの思いや考えを伝え合うことができるようになった」という実感を多くもつことができたことがうかがえる。
- 保護者による学校評価において、道徳の授業の成果が家庭でも実感が得られる結果が見られた。このことから、学校と家庭とが連携して、全体で道徳教育を推進してきたことがうかがえる。



### 2 課題

- 道徳的価値を主体的に自分の課題として考えられるよう、子どもたちにとって必要感がある授業を構想したり、導入を工夫し、ねらいを明確にしたりする必要がある。
- 子どもたちが自分ごととして考え、自己理解を深められるよう、自ら考え振り返る場を工夫したり、予想される児童の反応と発問を結び付け、補助発問を準備したりしておく必要がある。
- 思いや考えたことを伝え合える話し合いの活動内容や視点を工夫したり、場の位置付けを考えたりしながら授業を構想する必要がある。
- 「補充・深化・統合」を意識して他の教育活動との関連を図りながら、さらに道徳の授業を構想する必要がある。また、その実態を基に、今後も道徳教育全体計画や別葉などに反映したり修正を図ったりする必要がある。
- 道徳の時間における教材・教具等を計画的に蓄積して、次の授業改善につなげていく必要がある。
- 授業研究会が各ブロック部会での話し合いに終始してしまったので、そこで挙げた成果や課題を全教員で共有したりまとめを伝えたりする場をつくる必要がある。